

# みぞぐちとし

県道小畑～日田線

児童、生徒の通学路  
になつてはいるが、通行  
量が多く狭隘であり危

# 道路行政について

## 改善要求と着工の見通し

険性が高く、住民の改善要望も大きいので、工事着工時期を明確にするよう問い質したが、現在施行中の丸山五和線の開通が平成20年代の後半になる見通しでそれまでの着工は困難との回答であった。

市道銭花～五和線  
沿いの回答

全体的に幅員が狭く離合が困難な状況であることを認識しているので、用地の協力が得られれば離合所設置を検討していく。また落石等については市のパトロール隊で対応していくと回答。

市道荒平～後河内線

地域に密着した道路であり、荒平トンネルまでの測量を今年度予定していると回答。



## 掘発跡台車軌 道鉄便軽後筑

大正から昭和の初期まで、日田市の豆田町と久留米市を走り日田の近代化に貢献した「筑後鉄道」の転車台跡が発掘調査で確認されました。

小型機関車の「軽便鉄道」の転車台跡は全国的に珍しいということなので、近所の桑野洋輔氏



## フラスワン

6月の定例会終了後「議会改革委員会」が発足しました。

6月24日から2日間大分市で連合役員研修会があり参加した。

一日目は、連合が提唱する「社会保障」と「税制大綱」の考え方について講演、二日目は「働くことを軸とする安心社会」の講演でその主張するところを

## 壊れ行く日本社会 連台大分役員研修会

現在の日本社会が既に壊れかけているというショッキングな内容であった。理由は、少子高齢化の進展により「生産年齢人口」が減少し、経済成長の減速、社会保障の維持が極めて困難になっていること。

また、非正規労働者の増加（現在34.5%）で、年収200万以下の貧困者が4分の1をしめ、税金や保険料を支払えない人が増え、そのため結婚や子育てが出来なくなっていること。他に団塊世代の引退で年25兆円の需要がなくなりデフレに拍車をかけている等々が指摘された。解決策は働くことが尊重される社会を構築し、政治が生活に十分な賃金保障を目指し、消費を活性化させ経済を安定的に発展させることと指摘した。同感です。

長距離でチョット心配ですが、5日午後市役所前をいざ出発です。



寄贈して頂いた本田正巳さんから車のカギを受取っているところ。

支援活動を続けている「日本緊急援助隊」に、被災地で活用する軽自動車<sup>（注）</sup>が寄贈され、それを現地まで運ぶことが主な目的です。

7月9日、東日本大震災のボランティアから帰ってきました。この間、皆さまに大変御心配頂いたようで、あちこちで「どうやっったかい」「無事帰ってきたかい」等々聞かれます。現地<sup>（注）</sup>の状況踏まえ、少し詳細に報告します。

大分港からダイヤモンドフェリーで神戸港へ



神戸港到着寸前  
朝6時30分  
まだ元気です

名神高速道  
西宮インター

カーナビの使い方が不明で、インターへの入口まで迷いに迷い大変でした。

滋賀県の多賀SA  
北陸自動車道が目前  
車の量が減り少しホッとしています

大阪吹田SAで  
390円の朝食と  
給油でチョット休憩

新潟栄PAで休憩  
難所続きでグツタリ  
すでに夕方5時前



琵琶湖を左に見て、滋賀福井県をブツ飛ばし、石川県へまっしぐら。

富山県朝日ICから新潟県境の名立谷浜SAの約70km区間に26か所のトンネルで疲労困ぱい

新潟中央ICから、磐越自動車道で福島県へ。県境から磐梯山を左に見て、薄暗くなってきた自動車道をまい進



会津磐梯山

石川県加賀の  
尼御前で昼食  
一人だけ元気です



神戸港上陸から約15時間、夜10時過ぎに目的地の吉岡パプテスト教会に到着。約1000kmを走破し、ホット一息

時間が渋滞と重なったこと、東北自動車道無料化の影響などで、大型車両が多くヒヤヒヤの連続。目的地の大和インターを抜けホット、あと一息。

磐梯山SAで  
給油で停車  
残り約180km



数日前からボランティアに  
乗っていたメンバーと  
何ほともあれ記念写真

郡山ジャンクションから  
目指す東北自動車道  
大和ICへ



避難場所に指定されていた「門脇小学校」。しかし、当日は津波に巻き込まれ、火災が発生し焼けただれた校舎。校庭のガレキは取り除かれていたが、内部はこの現状。

7日〜9日まで、石巻市の避難所でのボランティアやそこに避難している人たちの引越しの手伝いをやりました。7日、何はともあれ「被災した現地を見てほしい」というので、津波により火災が発生した「門脇小学校」周辺を見てきました

一階部分しか見ることができませんでしたが、この様に凄まじい状況でした。4ヶ月経った今も後片付け、備品の持ち出しも出来ず、放置されています。

正面玄関に学校行事のアルバムが広げて置かれていました。その脇の花束が涙を誘いました。



学校周辺の様子です。隣接していた大きな寺院の建物は残っていますが、後はガレキの山です。当然この辺りには住宅があったはずですが・・・



傾いた家屋やガレキに囲まれた工場。復旧が進んでいない現状がそのままの姿であった。



避難所の人たちといつの間にか仲良くなり、一緒に七夕飾りの折り紙を作り、色々な話を聞かせてもらったと言っていました。帰る前日、涙ながらに別れを惜しんだそうです。



電柱以外何も残っていない。

